

米づくりのさかんな地域① (教科書 66～87 ページ) **解答**

氏名()

①あなたが家で食べている米は、どこでつくられたもので、何という名前ですか。

米の産地	米の名前

②米の生産量が多い都道府県ベスト5はどこでしょうか。教科書 67 ページウの「都道府県別の米の生産量」で調べましょう。

1位	2位	3位	4位	5位
新潟県	北海道	秋田県	山形県	宮城県

③たくさんの米をつくるには、どのような自然条件が必要ですか。教科書 67 ページを読みながら答えましょう。

- ・ 平らな広い土地
- ・ 豊富な水
- ・ 夏の時期に日照時間が長く、昼と夜の気温差が大きいこと

④新潟県や北海道、東北地方は、どうして米づくりに向いている場所なのですか。教科書 67 ページを読みながら答えましょう。

- ・ 大きな川の下流に広い平野があるから。
- ・ 冬にたくさんの雪がふり、水不足の心配がないから。
- ・ 夏の昼の気温が30℃以上になり、昼と夜の気温差が大きいため。

⑤新潟県南魚沼市は、どのような自然条件が米づくりに向いているといえるでしょうか。教科書 64 ページア、68～69 ページを見て答えましょう。

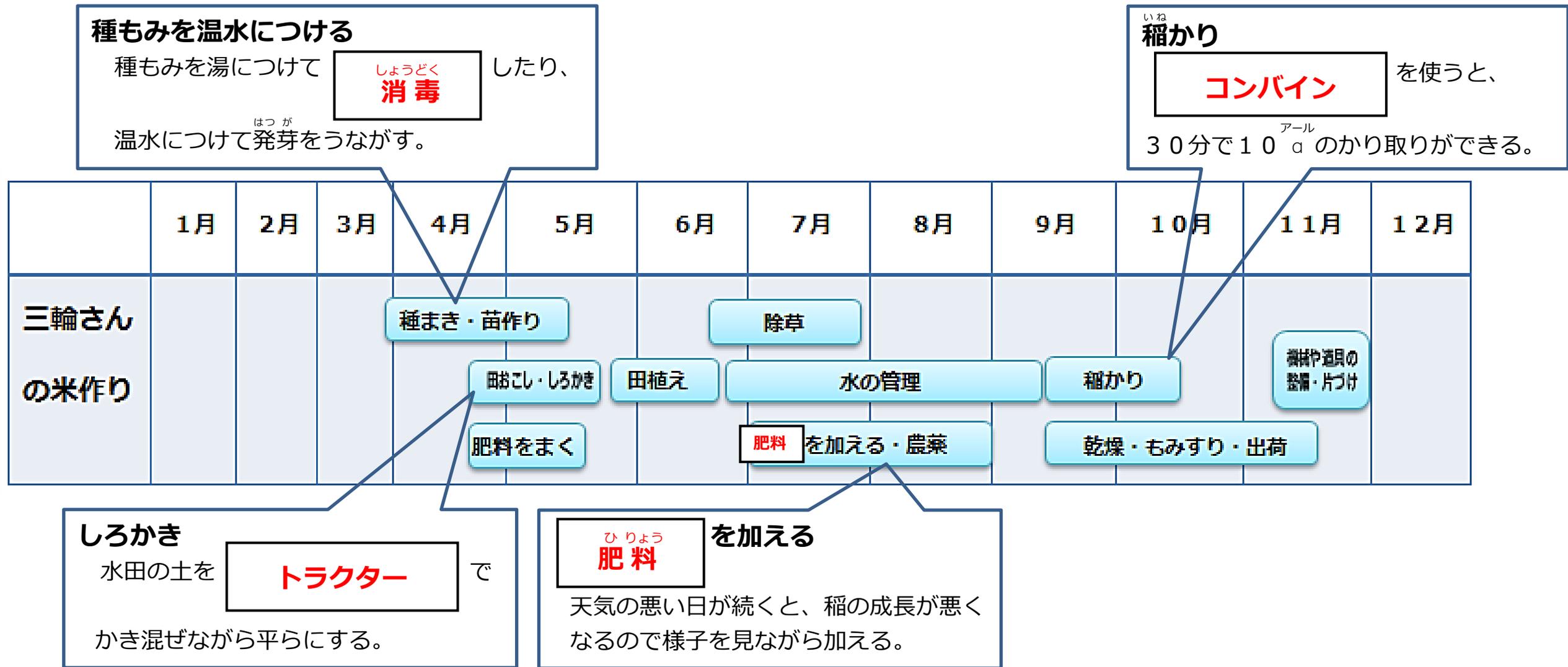
気候	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬は雪が多く、2m近く積もることもある。春には雪がとけて、豊かな水と栄養分を土にもたらし。 ・ 夏はむし暑く、東京より平均最高気温が高いが、平均最低気温は東京よりも低く、昼と夜の気温差が大きい。
地形	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平らな土地の真ん中を川が流れている。 ・ 雪どけ水が流れてくる。 ・ 周りが山に囲まれている盆地のような地形で、昼と夜の気温差が大きい。

米づくりのさかんな地域② (教科書 66~87 ページ) **解答** 氏名 ()

①米づくり農家は、安全でおいしい米をたくさん生産するためにどのようにふうや努力をしていると思いますか。予想してみましょう。

自分の考えを書きましょう

②南魚沼の三輪さんがしているくふうや努力を教科書 72・73 ページを見て調べ、をうめましょう。



米づくりのさかんな地域③ (教科書 66~87 ページ) 解答

氏名()

①農家の人たちは農薬や化学肥料を減らすために、どのようにくふうをしているでしょうか。教科書 74・75 ページを見て調べましょう。

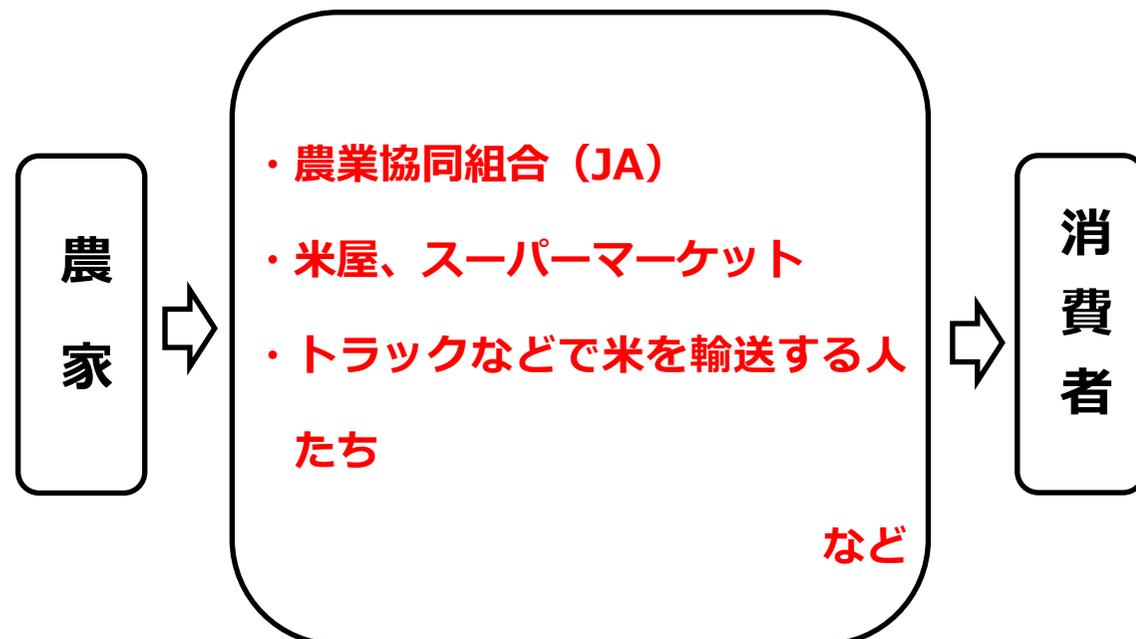
【農薬を減らすためのくふう】

- ・ 水田にカモを泳がせて、雑草や害虫を食べさせる。
- ・ 水田に玄米黒酢をまいて、害虫の発生を防ぐ。

【化学肥料を減らすためのくふう】

- ・ 化学肥料のかわりに、たい肥や米ぬか、もみがらなどを使う。
- ・ 水田に玄米黒酢をまいて、稲の成長を助ける。

②米が農家のもとから消費者にとどくまでには、どのような人たちが関わっているでしょうか。教科書 76・77 ページで調べて書きましょう。



③わたしたちが買う米の値段には、どのような費用がふくまれているでしょうか。

- ・ 農家の収入や機械代など、米の生産にかかった費用
- ・ 共同で使う施設の使用料
- ・ 商品のふくろ代
- ・ 流通にかかる費用
- ・ 広告にかかる費用
- ・ スーパーマーケットの利益

など

④おいしくて、病気に強い米をつくるために、全国の研究所は何を行っているでしょうか。教科書 78 ページを見て調べましょう。

【おいしくて病気に強い米をつくるためのくふう】

よい品質をもった品種をかけ合わせて、新しい品種を生み出す品種改良をしている。

⑤教科書 78 ページア・イの資料のように、昔に比べると同じ広さでの生産量が増えたり、作業の時間が短くなったりしているのはどうしてだと思いますか。

自分の考えを書きましょう

米づくりのさかんな地域④ (教科書 66~87 ページ) **解答**

氏名()

①農業機械が広まったり、耕地整理が行われたりする前と後では、米づくりはどのように変わったでしょうか。教科書 79~81 ページを調べ、表に整理しましょう。

農業機械	前	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて手作業で時間がかかった。 ・田植えや稲かりは、<small>おおぜい</small>大勢で共同作業していた。
	後	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が楽になり、作業にかかる時間も短くなった。 ・少ない人数で作業ができるようになった。 ・費用が多くかかるようになった。大けがをする危険もある。
耕地整理	前	<ul style="list-style-type: none"> ・水田が小さく入り組んでいて、山に近い場所は水を引きにくく、水田を増やしにくかった。
	後	<ul style="list-style-type: none"> ・水田が広く整えられ、大型の機械が使えるようになった。 ・用水路と排水路が整備され、必要なときに必要な量の水を水田に取りこめるようになった。

②教科書 82 ページア「米の生産量と消費量の変化」のグラフを見て考えましょう。

○生産量と消費量は、全体としてどのように変化していますか。

どちらも減っている。

○生産量の変化と消費量の変化には、どのような関係があると思いますか。

消費量が減ってきたから、国が生産量を減らした。

○生産量と消費量は、これからどうなると思いますか。

自分の考えを書きましょう

③米づくりがかかえる課題を教科書 82・83 ページで調べましょう。

○米の消費量が **減り** 続けている。

○近年、国による **生産調整** が見直され、産地や生産者が米の生産量を自由に決め、自由に米を売れるようになった。そのため、産地どうしの競争がはげしくなった。

○農業で働く人の数が、 **減っている**。

特に、なんれい年齢の **わかい** 人の数が少なくなっていて、あとつぎのいない農家が増えている。

米づくりのさかんな地域⑤ (教科書 66~87 ページ) **解答**

氏名()

①教科書 84・85 ページア~エの取り組みは、「米の消費量が減っている」「農家の数が減っている」という課題をくいとめるために、どのような意味があるでしょうか。考えたり、調べたりしたことを書きましょう。

ア 玄米を材料に使ったベーグルパンづくり	(例) 米の新しい食べ方を提案して、米の消費量を増やす。
イ 地域の農家が集まる勉強会	(例) おいしい米を生産するために、地域の農家どうして米づくりの技術を教え合い、米の消費量を増やす。
ウ 農業の技術を学ぶ	(例) 農業で働くことをめざす人に技術を伝えて、農家の数を増やす。
エ 農業体験	(例) 米づくりの喜びや地域のみりよくを伝えて、農家の数を増やす。

②教科書 85 ページを読み、米の消費量を増やし、米づくりを続ける人を増やすために、農家の人たちが取り組んでいることを調べましょう。

- ・ 米の粉を使った食品や無洗米^{むせんまい}などを開発する。
- ・ 農業機械を共同で買ったり、協力して農作業を行う。
- ・ 農地を借り集めて、大規模な生産を行う。
- ・ 種もみのじかまきなど新しい技術を取り入れる。

③南魚沼市で米づくりがさかんな理由を、「自然条件」「農家のくふうや努力」「農家を支える人々」の三つの見方から考えましょう。

<p>【自然条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊富な雪どけ水がある。 ・ 夏の時期に昼と夜の気温差が大きい。 など 	だから、南魚沼市では米づくりがさかんだ。
<p>【農家のくふうや努力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農家どうして、米づくりの勉強会を開いている。 ・ 農業体験を行っている。 など 	
<p>【農家を支える人々】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究所が品種改良をして、新しい品種を開発している。 ・ 南魚沼の米を売る店が各地にある。 など 	

④これからの米づくりに大切なことは何だと思いますか。考えを書きましょう。

が大切だと思う。

なぜなら、 **自分の考えを書きましょう**